

---

# 彼女の沈黙

大気

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女の沈黙

### 【Nコード】

N8940A

### 【作者名】

大気

### 【あらすじ】

平凡な僕と、平凡な彼女の、少し不思議な日常です。もし宜しければ、お付き合い下さい。

僕の彼女は喋らない。元々喋れないのか、ある時急に喋れなくなったのか、もしかしたら僕のいないところでは普通の女の子のよう  
うに笑い声をあげているのかもしれない。そんなことはどうでもいい。  
彼女は喋らない。まるでどこかに声を置き忘れてしまったみたい  
に。

僕は家に戻ると、真っ先に彼女の部屋のドアを開ける。彼女は、  
いつも大きなベッドの真ん中に座り、僕の顔を見るとほんの少しだ  
け微笑み、再び何か儀式めいた視線でどこか遠くを見つめる。

彼女は喋らない。

僕は彼女の後ろにそつと座り、柔らかにウェーブした髪をそつと  
撫でる。彼女は少しくすぐつたような顔を見ると、そのまま僕の肩  
に小さな頭を預ける。雨音だけが響くこの部屋の中、僕たちはまる  
で海の底にいるようで。

ひとしきり撫でてもらって満足そうな彼女は、ふわりと立ち上が  
ってバスルームへと向かう。僕はまるで出来のいい従者のように、  
彼女の後ろをついていく。お供しますよ。お姫様。

そこにある、無骨なハンティングナイフ。まるで似つかわしくな  
い彼女の小さな手は、いつも器用にそれをそつと真っ白な手首に這  
わせる。

彼女の左腕の柔らかな傷跡から真っ赤な血がとろりと滴り  
落ちる。僕は彼女の元に跪くと、まだ温かな彼女の血液を優しく舐  
める。

僕はいつも彼女の傷だらけの腕を舐めながら、少しだけ泣いてし  
まう。彼女は、そつと僕を右腕で撫で、寂しそうな笑顔を見せてく  
れる。

どうしてこんな風になってしまったのか、今となってはもう分か  
らない。僕も、そしてきつと彼女も、ほんの少しだけ、何かが足り

なかつただけなのだろう。

足りないものを埋めるように、不器用な手で作ったお城は、あまりに歪で誰の目にも留まらないけれど、それでも僕らはずっとここに  
いる。

僕と、彼女と、この小さなお城の中。

彼女は、何も喋ってはくれないけれど。

僕は、何も言ってあげられないけれど。

それでも。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8940a/>

---

彼女の沈黙

2010年10月17日03時11分発行